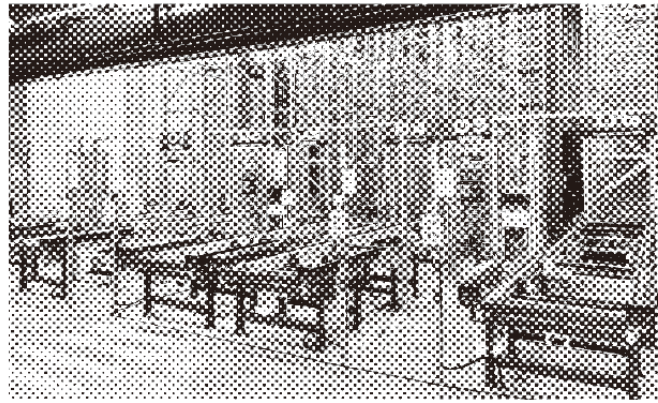


瑞光、成長戦略を再構築

紙おむつ製造機 欧米拡販

瑞光は主力の紙おむつ製造機の海外事業と、防護服製造機や自動排せつ処理装置などの新規事業で戦略を立て直す。紙おむつ製造機は需要増の見込める欧米を中心に拡販する体制を整える。防護服製造機や自動排せつ処理装置は2026年度以降順次ビジネスを本格化する。25―27年度に50億―70億円を成長分野に投資し、27年度の売上高を新規事業で80億円、全社で25年度比41・8%増の300億円を見込む。



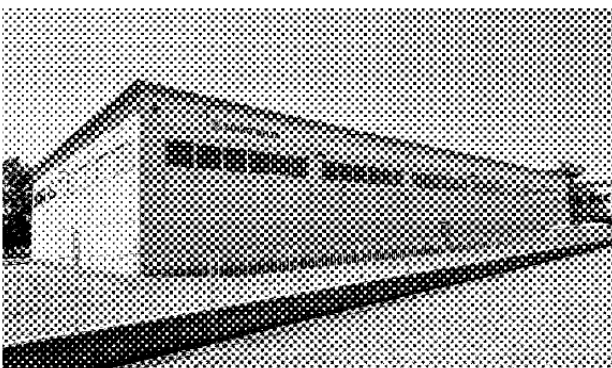
本社工場で7月稼働予定の自動倉庫

防護服なども重点

紙おむつ製造機は欧米で大人用おむつ向けの需要が伸びると見込んでおり、オーダーメイド型や高品質を強みにシエア拡大を図る。欧州では24年に買収したイタリアのデルタ（現スイコウ・デルタ）を拠点にオーダーメー

ド型の組み立て拠点やメンテナンス拠点としての機能を拡充する。従来デルタは標準型を中心にしており、ユーザー顧客の要望に合わせた仕様を提案する瑞光の事業スタイルを浸透

させ、オーダーメイド型の比率を高める。「ユニットを日本で製造し、現地で組み立てる形式で提案力が増す」（奥野文彦取締役）と方針を示す。デルタは今後中東・アフリカ地域の営業拠点としても活用する方針で拠点の拡張を検討する。サービス拠点のみの米国、販売が好調なインドで将来の工場設置を検討する。一方、東南アジアや中南米、アフリカは人口増で需要が見込めるものの中国メーカーとの価格競争が激化しており、戦略を見直す。



オーダーメイド型紙おむつ製造機の比率を高めているイタリアのスイコウ・デルタ

日本の本社工場（大阪府茨木市）では7月に自動倉庫が稼働予定。原材料、機械部品、試運転用不織布の近隣の賃借倉庫を集約して物流を効率化する。新規事業の防護服製造機は欧米の半導体や化学、石油関連業界から注文が来ており、27年度中に出荷が始まる見込み。

自動排せつ処理装置は27年度に韓国のJ2 L O H（ソウル市）との合弁会社のU Z J（春川市）が工場を稼働予定。敷地面積約3700平方メートル、床面積約1700平方メートルの工場、寝たきりなどの人がベッドで排せつするとセンサーが検知して自動で吸引、洗浄、乾燥する装置を生産。J2 L O Hが韓国の病院や高齢者施設などに販売する。

25年にユニチカから買収したスパンレース不織布事業ではR&Dセンター（大阪府摂津市）に試作設備を愛知県から移転した。切断やゴミ除去の工程をロボット化して省人化する技術を開発する。瑞光は既存事業のてこ入れと新規事業の種まきを同時に進め、売上高目標の達成を目指す。